

うしさん おく もの  
乳牛からの贈り物



# 『かぶと虫』を育てよう!!



カブト虫おじさんからの



カブト虫おじさん

うちだ りゅうじ  
内田 龍司さん

わたしは、乳牛を育成する酪農家であり、「久留米自然カブト虫牧場」の主です。久留米市荒木町にて30年来無償で、全国のこども達へ、酪農経営の副産物である、カブト虫の幼虫をプレゼントする活動を続けています。昨年も、全国へ約1万5千匹が里子として出かけていきました。

わたしは、「食と安全と循環型酪農経営の安定」の観点から、乳牛の餌は国産の稲わらを主体とした経営を行っています。

この餌で育成した乳牛の糞尿から、カブト虫の幼虫のごはんやベッドとなる「堆肥」をつくります。堆肥は、乳牛の糞尿とおがくず、水分調整をするための「えのきくず」や「稲わら」を混ぜて、2～3ヶ月堆肥舎で一次処理し、野外に野積みすると出来あがりです。

この堆肥にカブト虫が卵を産みつけ、たくさんの幼虫が育つのです。カブト虫が卵を産むのは有機肥料の土で安全な証拠です。幼虫が育った堆肥は、当初の量の1/5になり、そ

の堆肥を使って育てた野菜や果物は、通常と比べてサイズが大きく、糖度が高くて美味しくなります。

将来は、この堆肥を使ったブランド野菜をつくり、地域ぐるみの活動にひろげていけたらと考えています。

カブト虫の幼虫無償配布は、生産者個人として、日ごろ牛乳を飲んで頂いている消費者の方々へのお礼であり、全国の子供達へ農業や自然・命を守ることの大切さを伝えたい一心で続けています。この長年のボランティア活動と、カブト虫の幼虫を使った独自の廃棄物処理法は、平成17年に個人として初めての「カブト虫特区」認定として実を結び、活動の後押しをしてきています。

今日、皆さんが手にするカブト虫の幼虫は、安全と夢の使者です。どうぞ大切に育ててくださいね。



小泉首相と握手する様子(当時)